

第2回教育課程連携協議会議事録

日 時：2022年2月25日（金）10：00～11：00
形 式：オンライン（Zoom）会議

総委員：9名

（岡内祐一郎、平田透、相良多喜子、後藤克治、赤塚保正、中英俊、本昌康、河村征治、木下孝治）

出席者：8名 欠席者：1名

（内 訳）

本人出席：5名（岡内祐一郎、平田透、相良多喜子、本昌康、木下孝治）

代理出席：1名（後藤克治 代理：舟山忠彦）

書面表決者：2名（赤塚保正、中英俊）

欠 席：1名（河村征治）

開 会

1 議長挨拶

2 前回議事録の確認（議長 平田）

※【資料1】第1回教育課程連携協議会議事録

3 審議事項

（1）現行のカリキュラムより、本学で育成してほしい能力や追加・強化すべき科目等について

※【資料2】ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの関係図

※【資料3】職業能力水準と科目

【本学で育成してほしい能力について】

発言者	内 容
本委員	IT スキルについては、基本的なスキルがあれば問題ない。 弊社では、社内に IT 分野が得意な社員がおり、自社で業務効率をあげるシステムを外部の専門家と連携しながら作っているため、基礎が理解できていればいいと思う。
舟山委員	食を取り巻く環境が大きく変わり、本来であれば「食事」はとても楽しいはずだが、現在は新型コロナウイルスの影響により環境面でもよくない状況になっている。今後、IT 技術が進化したとしても、人間がロボット化することはない。次世代の人たちには、「人」として食を通じて笑顔を生み出し、ビヨンドコロナに向かって、地域を盛り上げてほしいと考える。そのために必要な能力を身につけさせてほしい。
木下委員	食の分野はとても幅広く深いため、人間力を身に付けた人材を育成しないといけないと感じる。飲食業を営む中で、体系的な知識・技術をどのように社員に伝えることができるのが課題となっている。食は、世界的な広がりがあるため、食を総合的にとらえた

	「プロフェッショナル人材」を育成する大学として期待している。
--	--------------------------------

【現在の大学教育について】

発言者	内 容
本委員	大卒者は、課題にぶつかった時、何を読めばいいか、誰に聞けばいいか、それらを見つける能力をもつ人材だと思う。大学教育に期待したい点は、優れた問題解決能力と早急に人脈を構築できる力である。そのためにも、大学教員には、こまめに学生を観察し、学生本人の適正を見極め、どこを伸ばすべきか指導できる力が必要だと感じる。
舟山代理	弊社では、入社後、半年間で労務・総務を学び、その後、店舗で現場実習をしながら、1年間かけてオペレーションを学び、店長の働く姿を見ながら必要なスキルを体得している。大学のように、カリキュラムがあり、それらを体系的に学ばせるということではできていない。貴学のカリキュラムを見ると、基礎的な科目がしっかりしており、現場に入ったときに、改革力や突破力として生かすことができると感じる。 「外食を科学する」ということをテーマとして、企業課題をロボテックスで解決できないか、実際に工業大学と研究を進めている。貴学でも工業系の視点も養うようなフェーズがあるとさらにいいと感じた。
岡内委員	委員の皆様の意見より、専門職大学は現場感覚を大切にしなければならないと感じた。本委員の発言の通り、課題にぶつかった時に自分でアクションする力を持ち、人間力を身につけた人材を育成したいと考えている。学生が、自ら考え、調べ、行動できるような教育を、意識的に取り入れていく必要があると感じた。

(2) 社会人の学び直しに関する企業側の受入体制について

※【資料4】令和元年度「社会人の学び直しの実態把握に関する調査研究」調査報告書

【社会人の学び直しに対する企業側の状況について】

発言者	内 容
本委員	社員を何年も大学に通わせることは難しい。また、社会人の学び直しということであれば、大学ではなく大学院かもしれない。
木下委員	大卒者を採用したい理由は、近年のイノベーションの激しさ、ITのスピード感等、専門的な人材がいないと企業もついていけないと感じているためである。労働環境の整備や賃金の引き上げ、人材採用も難しい中で、ITを駆使しながら課題を解決してくれる人材がほしい。社会人の学び直しについては、現段階では何とも言えない。
舟山代理	外食産業の人材は流動性が高く、中途採用も含めて通年で採用できている。弊社の社員が受講することを想定した場合、学ぶ内容の細目を個別に絞ることができるので、対価を払ってでも学ばせたいと思う。貴学で学ぶ学生にとっても、異業種の社会人とのコミュニケーションがあることで、人間力が養われるためメリットがある。大学で社会人の学び直しの機会を設けてもらうことは、基礎からしっかりと学べるという点が、一般的なセミナー等では学べない内容となるためいいと思う。
本委員	社会で必要とされる能力は、「職務遂行能力」と「人間性」の2つであり、これらを兼ね備えた人材が必要だと感じる。職務遂行能力は大学で身に付けてほしいが、人間性はどのように身につけさせることができるのか、ここが難しい点である。貴学の理事長がとても大切にしていた、率先してトイレ掃除をすることなどは、人間性を身につけさ

	せるための活動として、体現されている。人間性を身につける教育を、どのように大学教育に組み込んでいくことができるのかが、非常に重要なことだと考える。
--	---

【社会人が大学で学ぶ意義について】

発言者	内 容
木下委員	貴学のカリキュラムのような内容を学んだ人材は、今の飲食業界にはほとんどいないのと思う。飲食業界は、この10年で大きく変化をしており、イノベーションが必要な点と守るべき点がある。様々な分野について情報収集できる力や、経営者としての視点を、教育課程組み込んでほしい。
相良委員	食に関わるプロフェッショナルを育てる大学として、基礎学問を身につけさせることが必要だと感じた。職務遂行能力、人間力もそうだが、創造力、プレゼンテーション能力を育成する教育の必要性を感じた。

4 閉 会

<配布資料>

資料1：第1回教育課程連携協議会議事録

資料2：ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの関係図

資料3：職業能力水準と科目

資料4：令和元年度「社会人の学び直しの実態把握に関する調査研究」調査報告書